

科目名	臨床実習セミナーⅢ					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	PT 4年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	202教室	
授業概要	4年次診療参加型臨床実習では、評価実習の内容に加え、対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定等を学修することが求められる。臨床実習セミナーⅢでは、4年次臨床実習までに備えておくべき前提知識の学修到達度を確認した上で、知識を”想起できる”・”解釈できる”のレベルから、”問題に対して解決につなげる”まで発展させることを図る。									
一般目標	・これまでに修得した専門基礎・専門分野の知識を国家試験水準で身につける。 ・自己学修習慣を身に着ける。									
テキスト 参考書等	テキスト:必修ポイント 2021 障害別PT治療学(医歯薬出版), 参考:国家試験過去問(第48回～第56回の共通分野・専門分野), これまでに学内で使用した教科書全般									

到達目標		
知識(認知領域)		
・専門分野における障害別知識を説明できる。 ・専門分野に関連する専門基礎分野(解剖学, 生理学, 運動学など)について説明することができる。		
技術(精神運動領域)		
・KJ法やブレインストーミングなどの手法を用い、周辺知識を関連付けて情報を整理できる。 ・学修到達度を把握し、無理のない自己学修スケジュールを立てることができる。		
態度(情意領域)		
・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する, 周囲に配慮する, 周囲と討議する) ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	【骨関節系障害領域】膝・股関節疾患 ①	骨関節系障害領域における膝・股関節疾患や、関連する専門基礎分野(骨・筋の名称など)の知識を調べることができる。 学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
2	【骨関節系障害領域】膝・股関節疾患 ②	骨関節系障害領域における膝・股関節疾患や、関連する専門基礎分野(骨・筋の名称など)の知識を調べることができる。 学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
3	【骨関節系障害領域】膝・股関節疾患 ③	骨関節系障害領域における膝・股関節疾患や、関連する専門基礎分野(骨・筋の名称など)の知識を調べることができる。 学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
4	【骨関節系障害領域】骨折 ①	骨関節系障害領域における骨折や、関連する専門基礎分野(骨・筋の名称など)の知識を調べることができる。 学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
5	【骨関節系障害領域】骨折 ②	骨関節系障害領域における骨折や、関連する専門基礎分野(骨・筋の名称など)の知識を調べることができる。 学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
6	【骨関節系障害領域】骨折 ③	骨関節系障害領域における骨折や、関連する専門基礎分野(骨・筋の名称など)の知識を調べることができる。 学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
7	【中枢神経系障害領域】CVA評価・介入 ①	中枢神経系障害領域におけるCVA評価・介入や、関連する専門基礎分野(脳の解剖生理など)の知識を調べることができる。 学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
8	【中枢神経系障害領域】CVA評価・介入 ②	中枢神経系障害領域におけるCVA評価・介入や、関連する専門基礎分野(脳の解剖生理など)の知識を調べることができる。 学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
9	【中枢神経系障害領域】CVA評価・介入 ③	中枢神経系障害領域におけるCVA評価・介入や、関連する専門基礎分野(脳の解剖生理など)の知識を調べることができる。 学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
10	【内部障害領域】呼吸障害 ①	内部障害領域における呼吸障害や、関連する専門基礎分野(肺の解剖生理など)の知識を調べることができる。 学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
11	【内部障害領域】呼吸障害 ②	内部障害領域における呼吸障害や、関連する専門基礎分野(肺の解剖生理など)の知識を調べることができる。 学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
12	【内部障害領域】呼吸障害 ③	内部障害領域における呼吸障害や、関連する専門基礎分野(肺の解剖生理など)の知識を調べることができる。 学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
13	【内部障害領域】循環障害 ①	内部障害領域における循環障害や、関連する専門基礎分野(心臓の解剖生理など)の知識を調べることができる。 学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
14	【内部障害領域】循環障害 ②	内部障害領域における循環障害や、関連する専門基礎分野(心臓の解剖生理など)の知識を調べることができる。 学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
15	【内部障害領域】循環障害 ③	内部障害領域における循環障害や、関連する専門基礎分野(心臓の解剖生理など)の知識を調べることができる。 学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	川崎 裕史		実務経験紹介	理学療法士として病院勤務の経験があり、実習担当業務に携わってきた。	

科目名	国家試験対策セミナー				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	PT 4年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	203・204教室
授業概要	国家試験合格に必要な知識を得るに当たり、国家試験の概要を理解し、各自で対策を講じるための情報等を提供する。								
一般目標	・合格可能性検定試験①～⑨(学内模試)に対応する分野を学習し知識を習得する。 ・業者模試を定期的の実施することで、自身の理解度や到達度を把握し、苦手分野を克服し習得する。 ・教員による国家試験対策講座を受講することで、理解を深め知識を習得する。								
テキスト 参考書等	クエスチョン・バンク共通問題 クエスチョン・バンク専門問題 適宜資料配布								

到達目標		
知識(認知領域) ・これまでに修得した専門基礎・専門分野の知識について説明できる。 ・専門基礎・専門分野の国家試験水準の多肢選択問題において、各選択肢の正解・不正解の理由を説明できる。		
技術(精神運動領域) ・KJ法やブレインストーミングなどの手法を用い、周辺知識を関連付けて情報を整理できる。 ・学修到達度を把握した上で、継続でき、現実可能性のある自己学修スケジュールを立てることができる。		
態度(情意領域) ・国家試験に向け、積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	国家試験対策オリエンテーション	国家試験に関する概要(試験範囲、合格基準、問題傾向)を理解する。また、今後の国家試験対策の流れを理解する事ができる。
2	合格可能性検定試験①に関わる講義・指導	合格可能性検定試験①及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
3	合格可能性検定試験②に関わる講義・指導	合格可能性検定試験②及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
4	合格可能性検定試験③に関わる講義・指導	合格可能性検定試験③及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
5	合格可能性検定試験④に関わる講義・指導	合格可能性検定試験④及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
6	合格可能性検定試験⑤に関わる講義・指導	合格可能性検定試験⑤及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
7	合格可能性検定試験⑥に関わる講義・指導	合格可能性検定試験⑥及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
8	合格可能性検定試験⑦に関わる講義・指導	合格可能性検定試験⑦及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
9	合格可能性検定試験⑧に関わる講義・指導	合格可能性検定試験⑧及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
10	合格可能性検定試験⑨に関わる講義・指導	合格可能性検定試験⑨及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
11	業者模試①に関わる講義・指導	業者模試①及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
12	業者模試②に関わる講義・指導	業者模試②及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
13	業者模試③に関わる講義・指導	業者模試③及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
14	業者模試④に関わる講義・指導	業者模試④及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
15	国家試験説明会	国家試験受験に向けた準備ができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	川崎 裕史, 加藤 善範, 他		実務経験紹介	本校教員として国家試験対策講義を担当した経験あり。	

科目名	臨床実習C				単位数	16	時間数	720	
授業形態	実習	対象学生	PT 4年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	なし
授業概要	総合臨床実習は、評価実習の内容に加え、対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定等について、様々な疾患・状態の対象者を数多く経験することで学んでいく。長期の実習であることから、経過の観察を通じて理学療法の効果について経験を積み、診療録等への記載方法やカンファレンスへの参加など、様々な理学療法業務についても理解を深める機会となり得る。								
一般目標	・対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。 ・理学療法の流れを理解するとともに、臨床内容の意義を理解して説明することができる。 ・指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目(水準1)において、1)リスク管理、2)理学療法評価、3)理学療法治療技術を実践することができる。								
テキスト 参考書等	4年次臨床実習Cガイドブック、臨床実習教育の手引き 第6版(日本理学療法士協会、 https://www.japanpt.or.jp/activity/books/education_01/)								

到達目標		
知識(認知領域) ・4年次にまで履修した専門基礎科目・専門科目の知識について、想起(記憶している)～解釈(理解している)～問題解決(解決策につなげる)レベルで説明できる。 ・臨床実習で経験した内容について、資料や文献で調べたことをまとめた上で説明できる。		
技術(精神運動領域) ・臨床実習のチェックリスト上にある「理学療法に関する情報収集・検査測定項目」について、可能な限りその多くを実施レベル以上となるよう反復練習を重ね、習得できる。 ・情報を整理した上で、臨床推論を医学的根拠によって展開することができる。また経過による変化を考察し、効果検証が行える。		
態度(情意領域) ・挨拶・服装・身だしなみに留意して臨むことができる。・報告・連絡・相談を適宜行うことができる。・守秘義務の徹底することができる。・個人情報の取扱いに細心の注意を払える。 ・期限・約束を厳守できる。・探求心や向上心を持って、意欲的に実習に取り組むことができる。		
時間数	授業内容	授業目標
I 期 40時間×8週	総合実習	・対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。 ① 清潔で適切な身だしなみ、ことば遣い、礼儀正しい態度で対象者に接することができる ② 共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築することができる ③ 周囲における自己の存在を意識した言動を行うことができる ④ 自らが置かれた立場で、必要とされている要件を認識し、他者や指導者の助言などに対して適切に応答することができる ⑤ 対象者、家族のニーズ・要望などに対し、自身の感情を制御して接することができる ⑥ 対象者、家族にとって、相談しやすい雰囲気作りを心がけることができる
II 期 40時間×8週	実習前の取り組み ①ワクチン接種状況確認 ②実習前面談 ③感染対策 ④学修到達度確認 ⑤実習関連書類の作成 ・実習生プロフィール ・総括的評価およびコメント ・車両持込許可願(該当者) ・部外宿舍入居誓約書(該当者) ・食事申込書(該当者) ・個人情報保護に関する誓約書 ・出席簿 実習中の課題 ①臨床体験、診療参加 ②臨床実習チェックリスト ③臨床実習ポートフォリオ ・デیلیーノート ・臨床経験気づきリスト ・文献収集 ・勉強会や研修会資料 実習後の取り組み ①実習関連書類の提出 ②実習後指導 ③凝縮ポートフォリオ作成 ④実技確認 ⑤情意面確認 ⑥口頭試問	・職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚のある言動をとることができる。 ① 医療職としての心得や職場内におけるルールを守ることができる ② 部門におけるルールを理解し、診療プロセス(処方の確認、計画書、効果判定、カルテ記録、算定手順など)を理解した言動をとることができる ③ 臨床実習指導者と十分なコミュニケーションを保って良好な関係を維持することができる ④ 積極的に理学療法スタッフや多職種と関わり、良好な関係を構築することができる ⑤ インシデント・アクシデントが生じた際には実習施設の手順に従って対応することができる ⑥ 守秘義務を果たし、プライバシーを守ることができる ⑦ 臨床実習施設における多職種連携の展開について見学することができる ・理学療法の流れを理解するとともに、臨床内容の意義を理解して説明をすることができる。 ① 検査項目・情報収集項目の抽出・取捨選択の理由を説明することができる ② 検査結果の関連性について説明することができる ③ 対象者が抱える課題を抽出し、その抽出理由について説明することができる ④ 対象者の治療目標を設定し、その設定根拠について説明することができる ⑤ 理学療法プログラムを選択し、その根拠について説明することができる ⑥ 理学療法の即時効果を確認し、その内容について説明することができる ⑦ 実施内容を診療記録に記載することができる ⑧ カンファレンスでの症例提示内容について説明することができる ・指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目(水準Ⅰ)において、次の項目1)～3)を実践することができる 1)リスク管理について ① スタンダードプリコーション(標準予防策)が実施できる ② バイタルサインの計測を実施することができる ③ 意識レベルの評価を見学し、可能なならば実施することができる ④ 各種モニターの使用ができる 2)理学療法評価について ① 情報収集(診療記録、画像所見、部門内、他部門を含む)を実施することができる ② フィジカルアセスメント(問診・視診・聴診・触診)を実施することができる ③ 基本的な検査測定を実施することができる ・形態計測・感覚検査・反射検査・筋緊張検査・関節可動域計測・筋力検査・運動耐容能 ④ 姿勢観察を実施することができる ⑤ 動作観察を実施することができる ⑥ 疼痛の評価を実施することができる ⑦ 日常生活活動評価(手段的日常生活活動を含む)を実施することができる ⑧ 運動器疾患に関する個別検査を実施することができる ⑨ 中枢神経疾患に関する個別検査を実施することができる ⑩ 内部障害に関する個別検査を実施することができる ⑪ 各種発達評価を実施することができる 3)理学療法治療技術について ① 運動療法を実施することができる ・関節可動域運動・筋力増強運動・バランス練習・基本動作練習(随意性の促進を含む)・移動動作練習・日常生活活動練習 ② 物理療法を実施することができる ・温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・超音波療法・水治療法・光線療法・牽引療法 ③ 義肢装具療法などを実施することができる ・長・短下肢装具の適合性の確認・長・短下肢装具の調整・福祉用具の選択・車いすの適合性の確認・車いすの調整・歩行補助具の調整・歩行補助具の使用方法的説明

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品	○ (凝縮ポートフォリオ、口頭試問)	○ (実技)		100	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	島本 祐嗣、川崎 裕史、他		実務経験紹介	理学療法士として病院勤務の経験があり、実習担当業務に携わってきた。(島本)	